

カリキュラムに関する研修会実施報告 ～授業設計と学習評価～

教育支援研究開発センターは、本学の教育の質に関する取組の一環として、全学的なFD/SDを推進するための研修会・ワークショップを開催しています。本号では、「カリキュラム」をテーマとした令和4年度第2回全学FD/SD研修会、2月に実施した教員向けの研修会についてご報告します。

その他、生まれ変わった「高等教育フォーラム」のご案内、そして、「8つの資質・能力」についての学生との意見交換会についてもご紹介します。

8つの資質・能力 動画公開中！

学修者本位の教育の実現に向けての取り組み「DPに基づく『8つの資質・能力』説明動画」をPOSTのキャビネットにて公開中です。

POST > 教員・事務職員用キャビネット > 10_カリキュラムマップ・アセスメントプラン > 01_8つの資質・能力

アクティブラーニングを活用した授業事例集 公開中！

本学のアクティブラーニングを活用した授業をご紹介する事例集をPOSTのキャビネットにて公開中です。

POST > 教員用キャビネット > 857_教育支援研究開発センター > 00_授業支援 > 授業事例集

Contents

- p2 <FD/SD活動の推進>
 - ・令和4年度第2回全学FD/SD研修会 開催
- p3
 - ・学修者本位の教育の実現に向けたカリキュラム設計に関する研修会 開催
 - ・「8つの資質・能力」学生との意見交換会 開催
- p4 <FD/SD活動の推進>
 - ・高等教育フォーラムが創刊13周年を迎えます
- <学生の主体的な活動>
 - ・グローバルコモンズでの取り組みを通じた学びーロシアからの交換留学生のチャレンジー

カリキュラムを支える授業設計と学習評価

講師：中島 英博 先生 (立命館大学 教育開発推進機構 教授)

京都産業大学 令和4年度第2回全学FD/SD研修会

カリキュラムを支える 授業設計と学習評価

授業で何が学べて、どうやって評価されるのか？
それを示すのがシラバスであり、学生と教員とのコミュニケーションツールとも言えます。教員にとっては、担当科目の目的や身に付けられる「資質・能力」、そして学生の学習目標を伝える手段であり、学生にとっては、履修を決める際の判断材料となるものです。
今回の研修会では、立命館大学教育開発推進機構 中島 英博教授をお招きし、授業設計から学習評価、シラバスの重要性を、わかりやすく解説いただきます。ぜひご参加ください！

講師
中島 英博 先生
立命館大学 教育開発推進機構 教授

2022年10月28日(金) 15:00~17:00

プログラム

- 15:00~15:05 開会挨拶 黒坂光 学長
- 15:05~15:25 概要説明
- 15:25~16:55 講演 中島 英博 教授
- 16:55~17:00 閉会挨拶

参加方法

10月26日(水)までにMicrosoft forms申込フォームでお申込みのうえ、対面またはオンラインZoomでご参加ください。
※研修会の都合上、事前申込をお願いしておりますが、当日参加も可能です。
対面参加の方：当日、5407教室（5号館4階）へお越しください
オンライン参加の方：後日URLを送付します

お問い合わせ先：4号館1階 教育支援研究開発センター事務局 (075-705-1729) kyoku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp



研修会のポイント

- ・シラバスの重要性の解説
- ・DP/CPと統合的なシラバスを作る
- ・逆向き設計の原則

今年度第2回目となる全学FD/SD研修会は、全ての教職員がディプロマ・ポリシーに基づいて策定された「8つの資質・能力」を理解し学生に説明できること、そして、担当する授業科目で修得を目指す資質・能力を意識して自らの専門性のもとに「授業設計と学習評価」を行うことを目指し、本学の取組みの概要説明と外部講師による講演の2部構成で10月28日(金)に開催しました。当日は、対面・オンラインを含め110名が参加・視聴しました。

第1部では、黒坂 光 学長から、「学修者本位の教育」の実現に向けた本学における教学マネジメント体制等について説明がありました。それに引き続き、吉田 裕之 教育支援研究開発センター長から、学部の教学マネジメントのこれまでの取り組みと、今後の方向性について説明がありました。

第2部では、立命館大学 教育開発推進機構 中島 英博 教授をお招きし、「カリキュラムを支える授業設計と学習評価」をテーマに、シラバスの重要性についてお話いただきました。

カリキュラムによって定められた到達目標に対して、それをどのように評価するのかを決め、その上で授業内容を考えること(=バックワードデザイン(逆向き設計))が重要であること、ポリシーが適切に記述されているにもかかわらず、到達目標に落とし込めていないためにポリシーとシラバスとの整合性に課題を抱える事例が存在することなど、本学における今後の取組みに大きな示唆を得ることができた内容でした。

参加した 教職員の声

- ・ディプロマ・ポリシーからカリキュラム・ポリシー、シラバスに至るまでの構造が整理できた。
- ・シラバスの位置付けや記載内容の改善に関する具体的な対応方を伺うことができた。
- ・シラバス検討会や評価課題検討会など、シラバスを組織的に改善する方法が参考になった。
- ・評価の仕方とシラバス(目標、到達内容)に整合性が取れている必要があることを改めて認識した。
- ・主題はシラバスであったが、アセスメントにもつながるヒントが得られた。

学修者本位の教育の実現に向けた カリキュラム設計に関する研修会 開催

令和4年4月をもって一旦カリキュラムマップとアセスメントプランの完成を迎えました。

しかし、これらは完成が目的ではなく、これらを用いて、現状の見直しを行っていくことが重要です。そこで、カリキュラムマップやアセスメントプランについて、カリキュラム編成に関わる各学部の教員間でさらに知識を深めることで、カリキュラム改善に役立ててもらおうと、そして学修者本位の教育の確立に繋げていく当事者意識の醸成を目的として、2月22日（水）、2月27日（月）に「学修者本位の教育の実現に向けたカリキュラム設計に関する研修会」を実施し、68名が参加しました。

当日は、愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 中井 俊樹 教授、竹中 喜一 准教授をお招きし、カリキュラムの編成と実施、評価と改善、マネジメント体制等について、ワークを交えながらご講演いただきました。その後、各学部でカリキュラムの課題解決に向けての実践ワークを行いました。

「気づきの多い研修であった」「今後活かせる学びがあった」「他学部の取り組みが参考になった」等の声があり、参加満足度の高い研修となりました。



「8つの資質・能力」学生との意見交換会 開催

ディプロマ・ポリシーに基づいて策定された「8つの資質・能力」について、今後、オリエンテーション、ガイダンス等をはじめとする様々な場面を通じて、学生に届けていく計画です。そこで、まずはどのような伝え方が効果的なのか学生の意見を聞くこと、また、学生自らが主体的な学びを波及させることを目的に、学生代表である志学会執行委員会の皆さんとの意見交換会を開催しました。

当日は、志学会執行委員会の皆さんと、学生部、教育支援研究開発センターが集いました。学生向けの説明動画視聴の感想、「8つの資質・能力」、学生への浸透に向けて等、活発に意見交換しました。

学生たちからは、「難しい内容なので、もっと親しみやすくするといいかも」「それぞれの資質・能力が具体的にどのような力となって学生生活にも変化があるのか等、視覚でイメージしやすいようにしてはどうか」といった声が聞かれました。



高等教育フォーラムが創刊13周年を迎えます！

今年度から大きく生まれ変わった教育支援研究開発センター発行の紀要「高等教育フォーラム」のご紹介です。
京都産業大学における教育実践を学内外に発信するツールとして、ぜひご活用ください！！

Q. 高等教育フォーラムとは？

高等教育に関する実践事例や研究を学内外に報告・共有することを目的として、2011年から毎年3月に発行しています。

京都産業大学が発行している他の紀要と異なり、京都産業大学に籍を置く職員の投稿も可能で、個々の授業レベルから教育課程、大学レベルの教育実践を発信する場であることが特徴です。

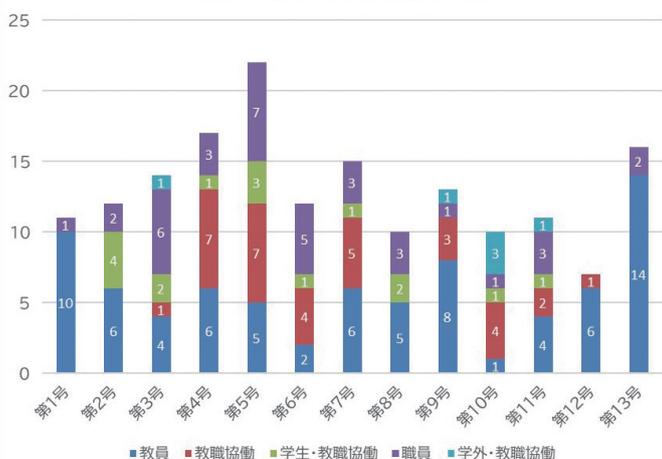
ちなみに・・・

過去には、このようなキーワードで投稿されています。



学習支援
キャリア教育
アクティブラーニング
PBL
教育効果
初年次教育
ルーブリック

掲載数の推移と投稿者属性の内訳



Q. 投稿資格者は？

「高等教育フォーラム」原稿投稿細則 第2条に以下のよう
に定められています：

「高等教育フォーラム」に投稿する者は、原則として本
学の職員とする。ただし、共著については、著者のうち
の一人が本学職員であれば、本学職員以外の者も代表著
者として投稿することができる。

※ここでいう「職員」は教育職員・事務職員の両方を指します。

過去の投稿事例でも、教員・職員の共著、学生と職員の共著、学外教員
との共著など、様々な形で原稿が寄せられていることがわかります。

発行スケジュール

6月中旬	POST等での投稿案内	11月下旬	掲載可否の判定
7月下旬	投稿説明会	12月	印刷会社への原稿提出
8月31日	投稿希望者 意思表示締切	1月～3月	校正作業
10月31日	原稿提出メ切	3月末	発行

グローバルcommons LINK イベント「ロシア語で話そう！」を通じた学生たちの学び ～イベント企画者、サンクトペテルブルク国立大学(ロシア)からの交換留学生モルチュノワ・ペロニカさんのチャレンジとその広がり～

グローバルcommonsでは学生ボランティアスタッフ「LINK」によって「Discussion in English」をはじめ、様々なイベントが実施されています。ここから着想を得たペロニカさんは、ロシア語学習者を対象に、2022年11月からの秋学期中、週2回のロシア語を使ったイベントを開催してくれました。開催にあたっては、二つの理由があり、一つはペロニカさんが日本語のスキルアップにつなげること。そして、二つ目の理由は、学生たちが英語のディスカッションを通じて学び合う姿を見て、自分もロシア語ネイティブとして、本学の学生の役に立ちたいという思いがあったとのことです。実際にやってみて、参加者に日本語やロシア語を駆使しながら、説明することの難しさを学んだそうです。また、参加者からの質問を受け、どのような点が、ロシア語学習者が学習で躓くことになるのかにも気づき、これらの経験をロシアへの帰国後に、Teachingの場で役に立てていきたいとのことでした。

この「ロシア語で話そう」は、ペロニカさんが帰国後も、LINKメンバーが中心となって、学びの場が継続することになりました。ペロニカさんによれば、語学学習において、スキルアップとともに重要なのが継続し続けることであり、イベントが続くことは素晴らしいと本学学生たちにエールを送ってくれました。ロシア語ネイティブのペロニカさんですが、英語がとても堪能であり、その言葉には説得力があります。

学生目線で展開されるイベントだからこそ、活気に満ち溢れ、学生たちが自主的に拡散してくれています。ぜひ今後も彼らの活躍にご注目ください。



CERADES News Vol.24 2023年3月発行

編集／発行 京都産業大学教育支援研究開発センター

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 Tel：(075)705-1729

e-mail：kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp URL：http://www.kyoto-su.ac.jp/about/cerades/index.html